

# 2月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



# Dream通信

2011. 2. No.35

## 子ども達に新たな夢を ～伝統楽器の授業開始～



授業前のお祈りの様子



左奥が琵琶、手前が洋琴



中央、手に持っているのが胡弓

みなさんこんにちは。

今回の Dream 通信では、今月から始まった伝統楽器の授業について、そして新たに『夢追う子どもたちの家』に加わった2名の子どもについて、ご紹介します。

### 楽器の授業開始

左写真の伝統楽器は、歌手の川嶋あいさんが SAJ の孤児院のために寄付してくださいました。川嶋あいさんのコンサート会場にて募金活動を行った際、総額 91,893 円の寄付をいただき、何か形に残せるものがないと考え、そこで楽器を購入することを決めました。

カンボジアの中学校や高校の授業には、芸術に関する授業がありません。子どもたちは学校で音楽や美術の知識を得られないのです。まして楽器に触れる機会などほとんどありません。そこで園内で芸術に関する授業を行い、少しでも子どもたちの可能性を広げてあげることが出来ればと考えました。

今月 2 月 13 日から楽器の先生二人を園に呼び、授業を開始しました。伝統楽器の数は限られているので、やりたいという子どもがたくさんいる中、先生や職員と話し合った結果、子どもたちの中から 8 人が選ばれました。

授業では毎週日曜日、伝統舞踊の練習と同じ時間に、伝統舞踊で使用している音楽を練習しています。また、授業の始めには、カンボジアの風習に則って、祭壇にバナナ、米、線香、お祈りの飾り付けをして、先生と子どもたちでお祈りをしてから、授業を開始しています。

現在は、毎週 3 時間から 5 時間の練習を行っており、子どもたちは、「少しでも早く支援者の皆様に披露したい!」と張り切って練習に取り組んでいます。

日本ではあまり目にするの少ない、これらのカンボジア伝統楽器には、〈胡弓 (トロー)〉、〈洋琴 (クム)〉、〈太鼓 (スコダイ)〉、〈琵琶 (タケー)〉の 4 種類があり、それぞれが美しい音色を奏でます。



すぐに良い音を奏でる子も



手の動きを指導する先生



左がソーリンダー、右がスレイモイ



すでに友達とうちとけた様子

### 3時間に及ぶ練習

練習初日は、先生の自己紹介を含め、3時間という長い時間、楽器の練習を行いました。練習後に子どもたちに聞くと、胡弓が一番難しいようで、比較的簡単な太鼓と洋琴は「もうできる!」と言い張っている子どももいました。

毎週学習することで、自分たちの国の伝統の音楽を知り、それを自ら演奏することで音楽の美しさに触れてもらいたいと思います。また、音楽家という職業を知り、将来への視野を広げ、より多くの夢が生まれることを期待します。そして世界にはもっとたくさんの音楽があること、日本の音楽の美しさ、芸術に興味を持って、知ることの楽しさを覚えて欲しいです。

このような素敵な機会に恵まれ、子どもたちも大変喜んでいきます。川嶋あいさん、日本の皆様の温かい心にスタッフ一同心から感謝しております。

また、近い将来、皆様の前で上手に発表できるように、一所懸命に練習を重ねて欲しいと思います。練習を重ねるにつれて、子どもたちがどんな素敵な音色を奏でてくれるようになるのか、私たちスタッフにとっても、今からとても楽しみです。

### 新たに2名の子どもが入園!

今月中旬、園に新たに2人の子どもが仲間入りしました。今回2人の子どもが加わったことで、『夢追う子どもたちの家』は総勢79名になり、定員があと1名となりました。一人は写真左のPUTT・ソーリンダー。もう一人は、写真右のリアプ・スレイモイです。ソーリンダーは6歳、小学校1年生です。今まではタン・ヴィセト一人だけが一番年下の小学校1年生でしたが、念願の同級生が入園してとても喜んでいきます。園内で仲良く二人で遊んでいる姿をよく目にします。入園して2、3日はまだ慣れず、家に帰りたいたいと泣き出すこともありましたが、しかし今は元気に友達と一緒に学校に通っています。

スレイモイは5歳、園で一番の年下です。まだ幼稚園生なので、お姉さんたちと一緒に通園し、小学校内の幼稚園に通います。午後になると幼稚園は開いていないので、他の子どもを見送る際に自分も一緒に行きたいと、園の門からじっと子どもたちを見つめていました。

今後は、園内での規律を守り、大きい子どもたちや保母さんの言うことをしっかり聞かなくてはなりません。まだまだ小さい二人ですが、これから『勤勉・勤労・思いやり』を柱に、立派な大人へと成長して行って欲しいと思います。